

## 釜石港湾口防波堤の現地見学会のお知らせ

### ～特殊な逆T型ブロックによる潜堤構造の採用～

当事務所で復旧工事を進めている釜石港湾口防波堤は、港を出入りする船舶のために、航路部分に開口部が設けられています。開口部は津波を防ぐ上で非常に重要な部分で、水深30mまで捨石が施工（潜堤※<sup>1</sup>構造）されています。この部分の震災復旧工事は津波来襲時に捨石の流出を防ぐために、従来にはないコンクリート製の逆T型ブロック※<sup>2</sup>を使用した特殊な構造が採用されています。（別図参照）

このブロックの設置状況を公開するため、現地見学会を報道機関の皆様に対し開催する旨、再度お知らせいたします。

※<sup>1</sup>潜堤 津波の湾への流入量を最小限にとどめるために海面下に設けられる構造物

※<sup>2</sup>逆T型ブロック形状：長さ10m、幅16.0m、高さ10m、重さ約876t

#### 記

1. 日 時：平成27年2月2日（月） 9：00～12：00（予定）
2. 見学場所：釜石港 平田作業ヤード～湾口防波堤（開口部）
3. 集合場所：釜石港湾事務所（釜石市港町2-7-27）
4. その他：概略行程及び復旧イメージ概要（別紙参照）

※取材を希望される方は、1月30日（金）12:00 までに下記問い合わせ先（企画調整課小杉、佐藤）まで別添申し込み様式にてFAXでお申込み下さい。

〈発表記者會：岩手県政記者クラブ、釜石市記者クラブ〉

#### <問い合わせ先>

国土交通省	東北地方整備局	釜石港湾事務所
電 話	0193 (22) 9118	
FAX	0193 (22) 4651	
副 所 長	まつぶち 松渕	さとる 知
企画調整課長	こすぎ 小杉	よしふみ 宜史

申し込み様式]

FAX：0193-22-4651

東北地方整備局 釜石港湾事務所 企画調整課 小杉、佐藤 行き  
件名：釜石港湾口防波堤（開口部）逆T型ブロック据付現地見学会

日 時：平成27年2月2日（月） 9時00分～12時00分（予定）

場 所：平田作業ヤード、湾口防波堤（南堤）北側先端（防波堤上からの見学）

留意事項：

- 1）見学会は、今後の海象状況等によっては延期の可能性があります。据付日の前日2月1日（日）までに延期が決定した場合は、事前に申込みされた方にはご連絡致します。
- 2）当日の移動手段については、陸上部分（事務所一平田地区）は取材者側で移動手段を確保願います。海上部分（船着き場一湾口防波堤）の移動船舶は主催者で準備致します。
- 3）当日は工事現場での取材、海上移動もあるためヘルメット及びライフジャケット、軍手、長靴等の準備/持参をお願いします。準備出来ない社については、こちらで手配可能ですので事前に連絡願います。
- 4）平田作業ヤード及び湾口防波堤（南堤）上からの見学となりますので、防寒対策についても各自で準備願います。
- 5）運航船には定員があるため、申し込みが定員を超える場合は、1便、2便に分けての運航になります。その場合、申込み先着順での乗船となりますことをご了承願います。

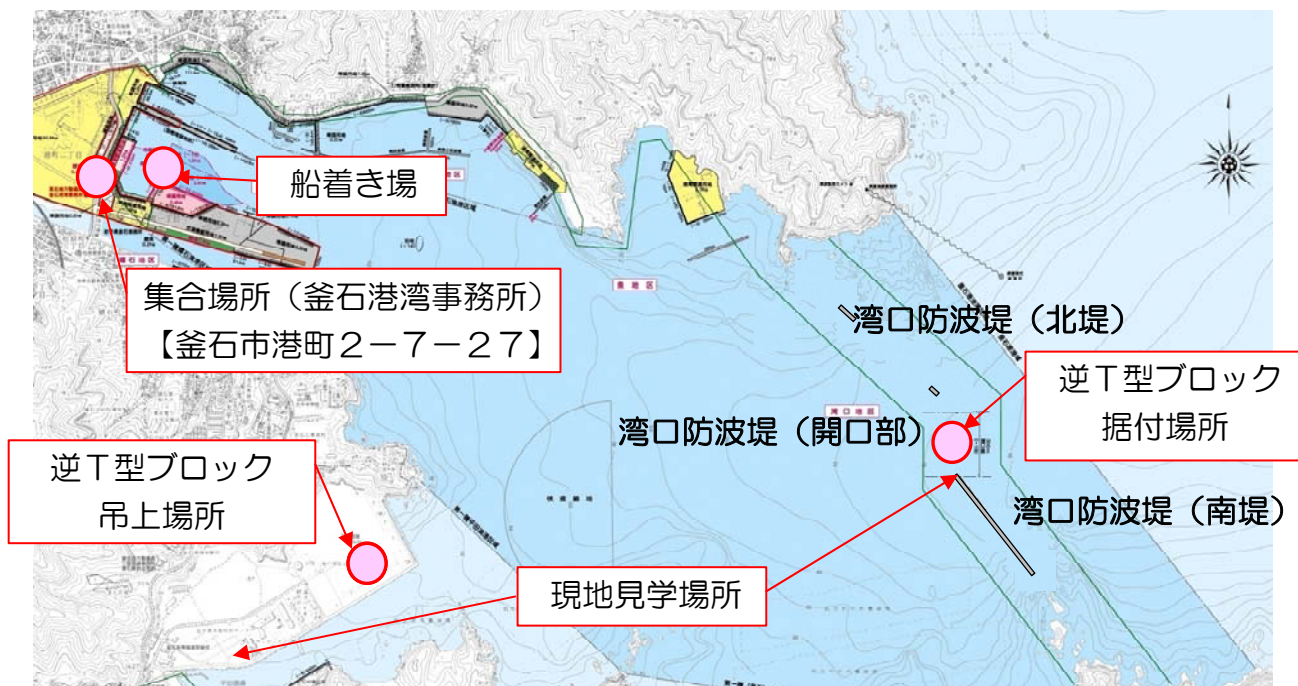
■1月30日（金）12：00までに、ご連絡下さい。

所 属	ふりがな	連絡先（電話番号）	E-mail FAX 番号
	氏 名		

## ○逆T型ブロックの見学会概略行程（詳細）

- 9：00 釜石港湾事務所集合  
見学会概要説明  
平田作業ヤードへ出発（各自移動：先導車有り）
- 9：15 平田作業ヤード到着  
（到着後逆T型ブロック吊上状況見学）
- 10：00 平田作業ヤード出発  
（各自移動：先導車有り）
- 10：15 船着き場到着（港湾業務艇：『くろがね』乗船）
- 10：20 船着場から出港（船内で工事概要説明）
- 10：40 据付見学場所到着（湾口防波堤（南堤）上）  
（到着後、逆T型ブロック据付状況見学）
- 11：45 据付見学場所出港
- 12：00 見学会終了（予定）（船着き場到着後、解散）

## ○集合場所、見学場所位置図



## ○逆T型ブロックによる潜堤の効果

津波を防ぐためには釜石湾を防波堤で全て囲ってしまうのが理想的ですが、それでは釜石港に船が出入りすることができなくなります。そこで、水深約 60m ある釜石湾口防波堤の航路部分に、水深約 30m まで石材を投入し、船舶の入出港には支障はないが、津波の侵入はある程度防止できるよう、潜堤部を設置しています。これによって、市街地への浸水面積軽減などの効果が期待されます（下記図面参照）。

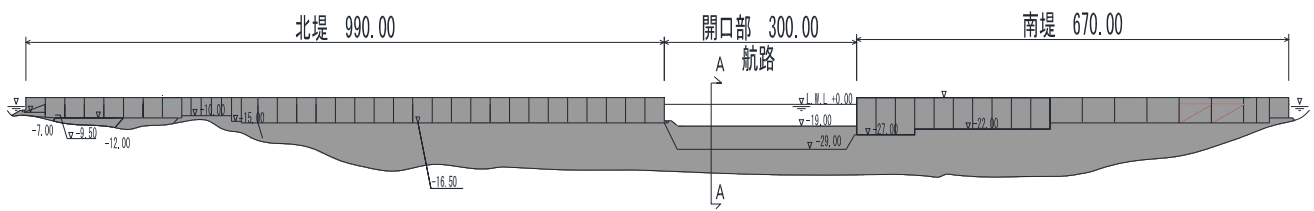
津波が釜石湾に来襲すると、潜堤の部分に津波が集中して、とても速い流れが発生します。このため、通常用いられる構造では、潜堤を構成する石材が流れのために流失し、崩壊してしまう可能性があります。

これを防ぐため、東北地方整備局では模型実験等も行った上で、今回施工されるコンクリート製逆T型ブロックを採用致しました。基礎石材上にこれを設置した後、さらにその上から石材を投入して逆T型ブロックを安定させ、津波による速い流れにも耐えられる構造としました。

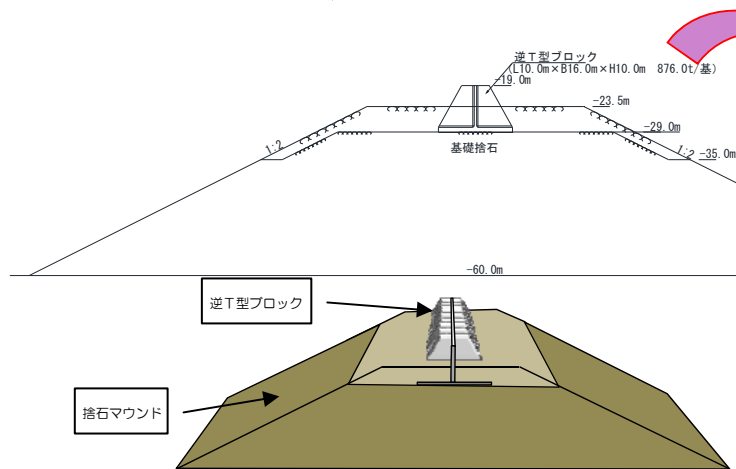
こうした構造は極めて珍しく、東日本大震災の復旧工事で採用されたのは釜石港と大船渡港の2港のみとなっています。

## ○開口部 潜堤 復旧イメージ概要

開口部 潜堤縦断面図



開口部 潜堤断面図(A-A)

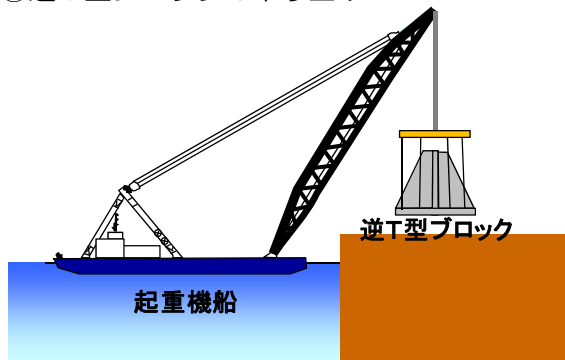


開口部 潜堤の形状

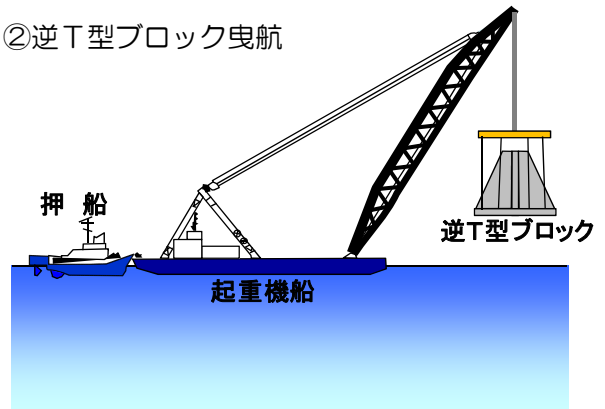


## ○逆T型ブロック据付手順

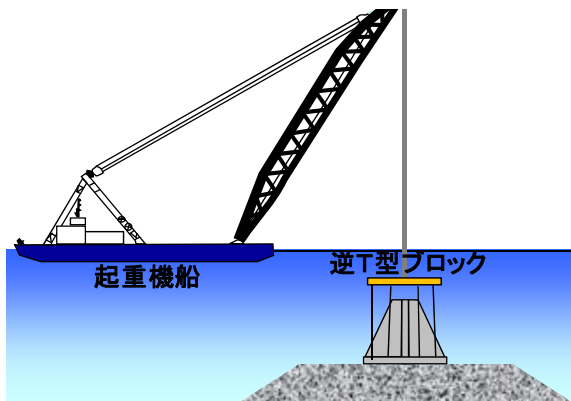
①逆T型ブロックの吊り上げ



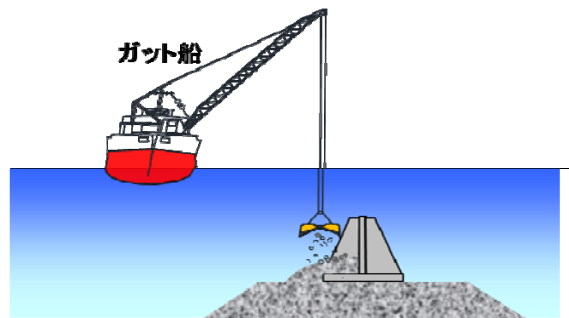
②逆T型ブロック曳航



③逆T型ブロック据付



④被覆石の投入



※赤枠箇所：今回の見学会で見学可能な工事内容